

F-1 寛解 Myeloma に発症した腸骨内 Plasmacytoma に有効であった Velcade, Auto-PBSCT 治療の 1 例

○林 邦雄¹、岡野永求²、

枚方公済病院血液内科¹、同 整形外科²

【目的】寛解 Multiple Myeloma (MM) に出現する Plasmacytoma に対する治療の検討【方法】《対象》2001/1, 47 歳 5 ヶ月 MM 発症、男性、IgD-L の M-protein, BJ-L 陽性。《現病歴》DMVM- α INF で CR 後、Thalidomide と α -INF の維持治療を行い、2004/5 M-Protein, BJprotein 陰性となり、その後 CR を維持していた。2006/12 BJ-L のみ陽性となった。Thalidomide 200mg/日、間歇 DEXA 40mg の 6 ヶ月治療で、2007/6 BJ-L を認めたが骨髄内 Myeloma cell は 1.3%、CR と考えた。その 2 ヶ月後左腰背部-臀部痛の為当院整形外科へ通院を始めた。2008/1 単純 Xp にて左腸骨臼蓋部から腸骨翼にかけて広範囲に斑紋状の骨透亮像を認め、同部の MRI, Bone-cinti で実質腫瘍が示唆された。骨髄生検で Plasmacytoma と診断した。化学療法に入る前、胸骨マールクで Myeloma cells は 9.8% と増加を認めた。《治療》Velcade を主とした化学療法後、L-PAM 150mg/mm + Auto-PBSCT を行った。【結果】Velcade 療法、Auto-PBSCT により Plasmacytoma は消失、破壊された骨も再生した。歩行障害と左股関節痛は消失し、ADL は回復した。PBSCT 後の造血回復は遅れ、最終 PC 輸血は 237 日目であった。汎血球減少は現在も続いている。その後の維持治療は Thalidomid 100mg 隔日。【結論】骨髄が CR を維持している時も、骨痛を認めた時は骨内 Plasmacytoma を疑って精査することが望ましい。Velcade は Plasmacytoma 治療に有効であった。7 年半の Thalidomide 投与後も、VP16 500mg/mm² 3 日の mobilization で CD34 10.15 × 10E6/kg の PBSC が採取でき、有効な Auto-PBSCT が可能であった。